

平成24年度 自己評価計画書

石川県立田鶴浜高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
1: 全教職員が意欲的に各自の課題に取り組み、自らの資質向上に繋げる。	① 個に応じた学習指導の実践を目指し、研究授業・公開授業、指導案検討会を実施する。	教務	自ら意欲的に学習する態度が身に付いていない生徒がおり、主体的な学習を促すきめ細かな指導が必要である。	【満足度指標】 個に応じた学習指導により、学習意欲が湧く。	「授業は興味深く、学習意欲が湧くように工夫されている」と評価した生徒の割合が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満 である。	CまたはDの場合は、指導方法、研修内容を再検討する。	生徒による授業評価を前後期1回ずつ実施する。
	② 全教職員のカウンセリング・マインドの向上を図り、職員研修会を実施する。	教育相談	生徒の抱える問題が顕在化する前に、予防的カウンセリングによる支援が必要である。	【満足度指標】 研修会の内容について理解を深めた。	研修会の内容を理解した職員の割合が、 A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満である。	CまたはDの場合は、実施方法を再検討する。	研修会后、職員にアンケートを実施する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
2: グループワークをはじめ個に応じた学習指導により、看護師・介護福祉士国家試験合格率100%を目指す。	① 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。	衛生 看護科	国家試験演習で、本校が目標としているレベルに達していない生徒がいる。	【成果指標】 ＜高校＞ 国家試験演習で偏差値40未満の生徒が0人である。 ＜専攻科＞ 国家試験演習で合格の目安である偏差値38未満の生徒が0人である。	＜高校＞ 偏差値40未満の生徒が ＜専攻科＞ 偏差値38未満の生徒が A 0人 B 1人 C 2人 D 3人以上である。	＜高校＞ C以下場合は、指導方法を再検討する。 ＜専攻科＞ B以下の場合は、指導方法を再検討する。	看護模試(全国)を実施し、評価する。
	② <1、2年生> 家庭学習の定着を図る。 <3年生> 理解度が一定レベルに達するまで個別指導を実施する。	健康 福祉科	<1、2年生> 家庭学習の習慣がついていない生徒がいる。 <3年生> 国家試験演習で一定レベルに達していない生徒がいる。	【成果指標】 ＜1、2年生> 学年の目標家庭学習時間（1年1時間・2年2時間）の達成者の割合が80%以上である。 ＜3年生> 国家試験演習のクラス平均得点率が70%以上である。	＜1、2年生> 目標家庭学習時間の達成者が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満である。 ＜3年生> 国家試験演習のクラスの平均得点率が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満である。	＜1、2年生> CまたはDの場合は、課題の内容や出し方を検討する。 ＜3年生> CまたはDの場合は、取り組み方法を検討する。	月毎に集計する。 演習毎に確認する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
3 地域の医療機関・福祉施設等を支える人材育成について、本校の大きな役割や高い実績の啓発に努め、志願者の増加に繋げる。	① 地区説明会、個別説明会等を開催し、看護師・介護福祉士の役割を啓発する。	教務 総務 健康 福祉科	看護師・介護福祉士の役割に対する理解を促し、本校への志願に繋げる必要がある。	【成果指標】 地区説明会、個別説明会等の参加人数が増加する。	説明会等への参加人数が、昨年度よりも A 15人以上増加した。 B 10人以上増加した。 C 5人以上増加した。 D 5人未満である。	Dの場合は、啓発活動の内容、方法等を再検討する。	説明会ごとに集計する。
	② 健康チェック・出前授業を実施し、衛生看護科への理解を深める。	衛生 看護科	看護への関心は高いが、本校の理解が十分ではない。	【満足度指標】 参加者の衛生看護科の理解が深まる。	参加者が「衛生看護科の理解を深めた」と回答した人数の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満である。	CまたはDの場合は、説明の内容、方法等を再検討する。	終了後にアンケートを実施する。
	③ 中学生や地域の方々に本校への理解を深めてもらうために、行事参加機会と情報提供に努める。	総務	学校公開行事において、中学生や地域の方々の来校数が少ない。	【成果指標】 学校祭、教育ウィーク・学校公開等の参加人数が増加する。	学校公開行事への参加人数が、昨年度よりも A 20人以上増加した。 B 15人以上増加した。 C 10人以上増加した。 D 10人未満である。	Dの場合は、学校公開行事の内容、方法等を再検討する。	学校公開行事ごとに集計する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
4 部活動やボランティア活動等の課外活動を推奨し、心身の調和的な発達並びにコミュニケーション力の向上を図る。	① 部活動を推奨する。	生徒会	生徒全員が、部活動に加入しているが、参加率が十分とはいえない生徒が見られる。	【成果指標】 部活動に積極的に参加する。	個々の参加率が A 90%以上 B 70～90% C 50～70% D 50%未満である。 ※3年生は総体・総文まで	Dの占有率が20%をこえる場合は、検討する。	7月・12月にアンケートを実施する。
	② 地域の行事等に関わるボランティア活動に取り組む。	総務	ボランティア活動に消極的な生徒も見られる。	【努力指標】 ボランティア活動を意欲的に行う生徒が増加する。	年間ボランティア活動時間が16時間をこえる生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満である	CまたはDの場合は、個別に働きかける。	ボランティア報告書より調査する。
	③ 健康チェック・ボランティア等の活動を通し、他者と積極的に対話する。	衛生 看護科 健康 福祉科	自分の意見を表現できない生徒がいる。	【成果指標】 ボランティア等でコミュニケーション力が向上する。	ボランティア実施後のコミュニケーションに関する自己評価が高くなった生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満である。	CまたはDの場合は、個別に話し方指導を行う。	年2回アンケートを実施する。